

会 議 録

会議の名称	平成３０年度 第６回 栃木東部地域会議
開催日時	平成３０年９月２６日 開会１９時００分 閉会２０時００分
開催場所	栃木市国府公民館 小会議室
出席委員氏名	荒川 直巳、石川 克法、大橋 哲夫、大山 恵久、荻島 哲、柏崎 桂二、 柏崎 章吉、神田 誠司、神戸 透、藺田 弘子、竹澤 克元、内藤 實、 中澤 健次、藤本 紀子
欠席委員氏名	石崎 久郎、田邊 勇輝
事務局職員職氏名	栃木東部地域まちづくりセンター所長兼国府公民館長 中嶋 美佐、 大宮公民館長 大橋 勝造、国府公民館主査 毛塚 隆
その他出席者等	
会議事項	・平成３１年度実施栃木市地域予算提案事業計画書（案）について ・（仮称）文化芸術館・文学館の見直しについて（情報提供） ・新斎場建設地再検討方針について（情報提供）
会議の公開又は 非公開の別	公開
傍聴人の数	０人
その他必要事項	
会議の経過	
発言者・議題・発言内容・決定事項	
１ 開会 司会：中嶋 センター所長 ２ あいさつ 荻島 会長 ３ 議事 議 長 ・本日の出席委員数について、センターから報告願う。 センター・栃木東部地域会議の委員総数は１６名のところ、本日の出席委員は１４名である。 議 長 ・全委員の過半数の出席であるため、本日の会議は成立している。 （１）平成３１年度実施栃木市地域予算提案事業計画書（案）について 議 長 ・センターから説明願う。 センター・（前回会議までの経緯と、本件事業計画書を読み上げながらその内容を説明した。） 担当課（公園緑地課）に見てもらったところ、テーブルとイスは備品として購入すると上置きになるが、動いてしまっていて危ないということ、また、この予算額でテーブルとイスを固定式にするには素材は木製になってしまうが、雨風にさらされて劣化が早いのが目に見えているので、（素材は木製より耐久性のあるものにしたいところ、）固定式にして基礎を打って手数料も加わるとテーブルとイスを予算内で設置するのは難しいため、イス等の設置ということにしたいとの話があり、予算科目も備品購入費ではなく全て工事請負費とする内容に修正した。この事業計画書は１０月	

9日に会長から市長へ提出する予定になっている。

議 長 ・ 皆さんから意見や質問があればお願いしたい。

委 員 ・ 丸沼・長瀬公園の状況としては、(揚水の)電気は止まっているが、ここ一週間くらい雨が多くて、沼の水が溜まっている。そこにカモが20羽くらい飛んできて入っていた。沼の水はモーターで揚げるよりも天然の方がいい。近所の方が、こんなに水が音を立てて流れているのは珍しい、と話していた。

議 長 ・ 今回はこの丸沼・長瀬公園の活性化のために事業を提案したいと思うが、皆さんから意見があればお願いしたい。

議 長 ・ この資料にもあるとおり4自治会(大宮第4、今泉、大日、大宮大日の合計約1,000戸)で公園管理組合を作って、月に1回、朝の1、2時間かけて除草したり片付をしたりして継続的に整備している。また、公園の入口の案内がないので、入口に看板を設置することも含めて今回の整備計画としたので、皆さんからのご意見をいただきたい。明日、明後日に公園を見てもらうと沼に水があって良い感じだ。

委 員 ・ 次の台風が日曜日に来るから、その後に見てもらおうとか。

委 員 ・ 今まででは台風が来ると水が心配だったが、(この丸沼に関しては)いくらか水が溜まることを望んでいる。

委 員 ・ あんまり増え過ぎて大水になって溢れたら困る。

委 員 ・ その点はいろいろ調整されている。サイフォン式になっていて、溢れないように造られている。相当なお金をかけて次の手まで考えた設計になっている。

議 長 ・ この内容で市長に提案したいがいかがか。(一同、異議無し。)

(2) その他 (無し)

4 その他

(1) 情報提供

センター・文化課から(仮称)文化芸術館・文学館の見直しについて、また、斎場整備室から新斎場建設地再検討方針について、の情報提供があった。

質問等は各担当課に直接問い合わせていただきたい。

(2) 事務連絡

センター・(次回の第7回栃木東部地域会議についてのお知らせ)

<(仮称)文化芸術館・文学館の見直しについて>

議 長 ・ 国の補助金の支給年度と工事の進み方の関係は大丈夫なのか。

センター・(文化課の資料のとおり)地方都市リノベーション事業は従来通り最大限に活用するため、対象工事は支援の期限までに完了する。

(その他、資料に基づいて見直し箇所の概要を説明)

議 長 ・ 今の説明について何か意見や質問があればお願いしたい。

委 員 ・ こういう情報を出すなら、説明できる人を呼んだらいいのではないか。こうして皆さんが集まっているのだから。

センター・地域会議に情報提供する場合は、質問等は担当課にお願いしますというのが地域づくり推進課の方針なので、ご理解いただきたい。

委員 ・質問したくても分からないという答えではどうなのか。

委員 ・質問があるなら直接担当課に聞いてみてはどうか。

委員 ・答えられるなら、2点だけ質問したい。見直した事業費35億円のうち地方都市リノベーション事業の助成金はどのくらいになるのか。

センター ・それは分からない。

委員 ・50%くらいではないか。

委員 ・5割くらい国庫補助がある。

議長 ・事業費の半分くらいの補助が入ってくると考えてよいのか。

委員 ・最終年度が決められているからどうなるのか。

委員 ・2020年度という期限に対して、(2022年度の開館になると)2年オーバーしているが差し支えないのか。

センター ・見直し方針にあるように、リノベーション事業の対象工事は完了するとなっている。

委員 ・綱渡りみたいな考え方だ。そんな上手くできるものなのか。

委員 ・本体工事を終わらせれば国は(補助金を)出すということだ。そのところは、行政は間違いなくやっていくと思う。

委員 ・もう1点聞きたいのは、何で見直すのか。費用がかかり過ぎるとか、施設が大き過ぎるとか、どういうことで見直すのか。

委員 ・一番初めは費用削減から言い出して、どれくらい削減するかという時に、ある規模の削減案を出したところ、それは一流品の展示の会場として認められないもので、それでは造る意味がないということで、一流品を展示する必要最低限の面積を確保したのが今回の見直し案になる。

委員 ・造るからには立派なものにしたらよいと思う。

委員 ・最初はそういう案だったが、お金が無いという話で見直しになった。

委員 ・お金の計算がある程度組めたから最初案ができたのではないのか。

委員 ・(現市長が)選挙公約で(見直すことを)言って勝ったから、見直しを行なっている。

議長 ・事業費が7億円減ると、国の補助はどのくらい減るのか。

委員 ・50%だ。

委員 ・市の負担は3億5千万円で、3階建てを平屋にして、浸水は性能的に保証すると言っても、あの辺りは巴波川の付近で一番…

委員 ・最初の計画できちんとできていたのだから、それでやればよかった。現市長が財源の削減と言うから見直しになっているのだが、なかなか50%の(補助がある)事業はないのだから、有効に利用していいものを造るべきだ。当初の計画を立てた前市長が落選したから仕方ないが。

委員 ・(見直しに)賛成した人が投票した訳だから…

委員 ・現市長が議員だった時に、議会ではこの件について反対意見は一つもなかった。当時は賛成していて今は経費削減するというのはどういうことか。

議長 ・その点は先日の議会でも質問されていた。

委員 ・議会だよりを観ても、この件の鈴木市政に反対意見は一つも出ていない。

委員 ・(議員は)その会派の決定に従うわけだから、一個人としてはなかなか発言できないということもあると思う。

委員 ・最初の設計を議会が承認したのに見直している。議会の承認というのは何なのか。

- 委員 ・議会のテレビを観ていたが、分かったような分からない事を言っていた。はっきりした言い方ではなかった。あと、(文化芸術館は豪雨時に)大水が流れる場所なのに、平屋にして文化財保存が可能なのか。
- 委員 ・地上げするのではないか。
- 委員 ・現在の設計では、電気・機械室は2階にするとあるが、(平屋にして)それに見合う対応が地上げだけで済むのか。電気設備がパンクしたら、先日の北海道のように何もできなくなってしまう。
- 委員 ・そういうことは細かく計算しているから気にしなくていい。まさか建って雨が降って浸水したなんてことにはならないだろう。
- 委員 ・この前の出水を経験しているのだから、それで同じようなものを造るならよっぽどバカだ。そんなことはやらないと思う。
- 委員 ・私が高校生の時には、栃高の周りは巴波川の水が溢れて、自転車で足が着けないことがあった。
- 委員 ・それ以前の昭和11年には、万町では水が肩の高さまで来た。そういった歴史を辿ると何回も浸水があったのだから、(浸水しないよう)しっかり計算していると思う。
- 委員 ・ただ、計算していてもこの前の浸水した時みたいに、何で浸水したんだとならないよう対策が必要だと思う。

<新斎場建設地再検討方針について>

- 委員 ・陳情があった理由は分かるのか。新聞などにはそれが出ていない。
- 委員 ・国の方で、(新斎場建設地の)近くに山があり、豪雨の時に土砂災害が起きて危険を生じるということで、見直しの検討に入った。
- 委員 ・その指定は今年の5月だが、それよりも前から騒いでいて陳情も出ているので、何を理由に出されたのか。そして、その場所も候補地として残っていることをみると、災害を防ぐ対策をすれば大丈夫なのだろう。二つの陳情が、(方針を)見直せと言うには理由があるのだから、その理由が何なのか。
- 委員 ・その理由は…
- 委員 ・9月19日に斎場再整備検討委員会が公開で行なわれた。傍聴者が特に多かった。西方と寺尾から出た陳情の理由として、第一に、市は、平井町自治会(現斎場がある地元自治会)に説明するにしても意見を聴くにしても、同自治会が今まで行政に貢献してきたことに対する重みを感じて折衝していない、真摯な態度に欠けていたことが挙げられた。西方と寺尾の陳情がこの部分の文章の中身が全く同じで、不思議なことだ。第二に、西方から遠いこと、北の西方や南の藤岡から見ると岩舟では地域性のバランスに欠けていることが挙げられた。第三に、ぶどう団地の坂は一つ峠を越すようなところで、冬場に凍結するおそれがあり、凍結した場合に事故が多くなって問題ではないかということが挙げられた。それともう一つ、先程も話があったが、県が新たに土砂崩れ地域に指定したこと、その3つが見直しを求める理由である。そして、西方も寺尾も現斎場地で進める方がよいという考えである。西方には1356名の署名があるというが、再整備検討委員会の西方の委員は、私のところにはそのような署名のお願いは来ていないと話しており、一人の人が署名を集めているようだ。万一、土砂崩れがあっても土砂が届かない場所に建設するという

計画になっているので、その点はクリアできる。この地区は3年前の大雨でも土砂崩れは無かった。平井町の現斎場地もその西側は土砂崩れ地域に指定されている。

（最終候補地で）土砂崩れがあっても建物には届かないというリスク管理はしている、との斎場整備室の説明があった。委員会としては、全員が（建設地を）見直す必要はないという結論を出した。しかし、残念ながら最終決定は副市長と各部長でつくる選定委員会、市役所職員に投げられた。

委員 ・自治会連合会の会長として都市計画審議会に入っている。今年2月の会議で斎場の問題がかかった。地元岩舟もOKと言っているけれども、反市長派である有力者が覆したので、議会で決定する運びになっていたものを保留にしてしまった。それがそのままになっていたのもので、誰かが起こしてだんだんこうなってきたのだろう。

委員 ・（斎場再整備検討委員会は）平成24年度から6年かけて21回会議をやってきた。委員が替わることもあったが、その都度バスで現場を見に行き、場所としては問題無いと決めていた。それなのに、見直しが出るのは政治がらみではないかという意見が出ている。

委員 ・市長選の政争の具にはしてはいけないということで保留にされた。（政争の具に）されてしまったが。

委員 ・反対する側の第一の理由は、遠いからというものだ。遠いと言っても10分から15分くらいだ。道路の凍結の話も出たが去年は一度も凍結しなかった。

委員 ・今まであそこで凍結したことがない。

委員 ・岩舟が最適だというのが委員会全員の意見だった。岩舟から出ている委員もどうして見直す必要があるのかという行政に対する不信感がある。三谷（みや）地区の皆さんも納得しているのに今さら見直しとなると（どう思うか）。平成36年度までに（斎場を）造らないと国の補助が出ない。

委員 ・合併特例債だから。

委員 ・今から設計書を作り直すのは時間的に余裕が無いと思う。真剣に討議している委員にとっては、（見直しは）降って湧いたような話だ。委員は皆、現状の建設地で進めるべきと考えている。しかし、決めるのは市の部長などになるようだ。

委員 ・普通は検討委員会の意見を尊重する形で進めるのだろうけれど。

委員 ・検討委員会の委員をしている小山高専の先生も（建設地を）決める会議には出られない。

委員 ・検討委員会の二十数回の会議の中で、見直しの意見は出なかったのか。

委員 ・議会の方もそれを担いで可決承認している訳だから。

委員 ・私が連合会長だった時に、一応草案もできて、焼く釜が8基ということで自治会連合会で意見を出して一旦は決まったが、市長が代わって、いつの間にか向こうに行ってしまった。その話は我々には無かった。向こうでやるという中で岩舟が出てきた。それで岩舟になるのかと思ったらまた今の斎場の場所だと。いくら何でも信憑性が無いのではないかと。文化芸術館の話もそうだが、最初は立派なものを造る予定だったが、市長が替わったら縮小したものを造るとか、決まったら議会がもうちょっと押し通すくらいじゃないと困ると思う。何かがあるとまた変わるかも知れない。

委員 ・今までの検討委員会は何だったのかということになる。

委員 ・一つは、議員の一部も職員も議会軽視の風潮があまりにも広まり、私達が選んだ市

会議員が決めたことが覆されるのでは困る。そこが一番怖い。

委員 ・色んな意見を出すのが民主主義というのは分かるが、半年や1年ではなく何年もかけて決めた…

委員 ・それは仕方ない。アメリカを見てみなよ。

委員 ・私たち検討委員が39項目で公平に点数を付けて評価したところ、岩舟が最も点数が高かった。

委員 ・最初は8候補地があり、4つに絞って、2つに絞って、藤岡と西方の中間の10キロ以内という選定で、岩舟に決まり、たまたま廃棄物処理（南部清掃工場）の市の地所があったから、それを利用すれば少し安くできるということで、議会の賛成多数で決まった。市長が替わると方針も変わるのだから仕方ない。前市長がまた市長になれば、また元に戻るかも知れない。

委員 ・いつまでも決まらないことで一番被害を受けるのは市民だ。

委員 ・委員会が要らなくなる。

委員 ・自治会連合会長や自治会長は市に物を言える立場にあるのだから、民主主義のルールを守ってくれと話していただくのが、この段階でできることになる。検討委員会ではこれ以上は…

委員 ・今の形のままで進めてくださいというのが検討委員会の意見だ。

委員 ・自治会連合会は各自治会の集まりであるから、各自治会の声を反映させるために市に提言したり、意見をあげたりする機関にするよう、市に主張したことがある。最近、少し聞き入れてくれた。そうでないと、集まって市の連絡をするだけでは連合会の役割がないことになる。

議長 ・組織論のような話になってきたので、この辺でよろしいか。

委員 ・巴波川はもう少し底を深くできないか。今年みたいに水が少ないと、5人以上乗ると屋形船が底に付いてしまう。

委員 ・屋形船は特に重いからすぐ付いてしまう。

委員 ・船頭さんが大変だ。今年の夏は雨が少なかったから、本来回る所を回らないでこの先は行けないと言う。

委員 ・昔は飛び込むこともできた。もう少しさうとかできないのか。

委員 ・地下水が30年で5メートル下がり、50年先は地下水が枯渇すると言われている。

委員 ・議会とか市の色んなところに昔の大水とかを知っている年寄りがいない。経験者がいない。

委員 ・明治時代の資料を見ると栃木の大通りの半分は川だった。だから水が来るのは当たり前だ。

委員 ・水が少なくなると5人くらいしか乗れない。底に付いてしまう。

委員 ・東陽中学校創立50周年寄付金への御協力に感謝申し上げたい。9月20日現在で390万円近くになった。PTAの予算で100万円貯めていたものを合わせて500万円くらいになるのではないかな。使い道としては、これから学校との話し合いをすることになるが、優勝旗入れケースと吹奏楽部の楽器購入、校内の備品購入に使わせていただく。

センター ・9月29日（土）の地域自治交流会に出席される方は当日よろしくお願ひしたい。

